

ほるほどのっ



学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報

今月のトピック紹介版

3月号



【中学校 英語科】

英語訪問から考える授業づくり

子どもたちの力を最大限に引き出す
校内研究の充実に向けて

～今年度の研究を振り返り、次年度の研究を
スムーズにスタートするために～

組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」
すべての子どもが安心して過ごせる
学級づくりのために

今年度の英語訪問では、授業参観や事後協議の柱となる領域を各学校で決定し、該当の領域の言語活動を実施していただきました。そこから見えた状況をもとに、生徒が「できた」「わかった」と実感できる授業へレベルアップするためのポイントを2点お伝えします。



参考にしたい授業の様子

- ◎目的、場面、状況が工夫されていた。
- ◎中間指導をはさみ、言語活動を繰り返し実施していた。
- ◎問いやポイントを示してから、読む活動や書く活動が行われていた。

改善が必要な授業の様子

- △目的・場面・状況の設定がなく、ただ読んだり聞いたりする活動が行われていた。
- △言語活動の際、教師が型を示しすぎてしまっていた。
- △ゴールの姿の生徒との共有がなされていない。

授業づくりで大切にしてもらいたいポイント

①ゴールの明確化と共有

身につけたい力を明確にして単元や授業を組み立てるようにしましょう。ゴールを設定する際には、生徒の興味・関心を踏まえて、目的、場面、状況を具体的に設定しましょう。また、ゴールの姿を生徒と共有し、生徒自身がどんな力が身につくのかを意識することも大切です。

②型を示しすぎない言語活動の実施

表現の領域では、メモを活用した発表など、型を示しすぎないことが大切です。

Small Talkでは、トピックのみを示すなど、既習表現を駆使して、自分の気持ちや考えを伝え合う活動になるようにしましょう。



英語訪問でお伝えした、今後の授業づくりに向けての動画です。ぜひ、ご覧ください。



令和5年度全国学力・学習状況調査
調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導事例
～学習過程を意識した授業作り～
事例4 「話すこと」聞いたことを基に自分の考えや理由を話す
第3学年の実践
＜国立教育政策研究所 中学校英語指導事例集より＞



<ポイント①の具体例> 単元末の生徒の姿を明確にし、適宜生徒と共有する。

単元末のゴールを単元のはじめから生徒と確認したり、単元を見通したワークシートを活用したりする等、生徒自身が単元末にどんな力がつくのかを単元を通して意識できるようにしましょう。



＜単元の指導と評価の計画＞

時間	■:目標
1	■単元の目標を理解する。
2	■環境問題を解決しようとしている人々の取組に対する考え(その1)を聞き、要点を捉える。
3	■環境問題を解決しようとしている人々の取組に対する考え(その1)を聞き、その内容を基にして、自分の考えと理由を話す。
4	■環境問題を解決しようとしている人々の取組に対する考え(その2)を聞き、その内容を基にして、自分の考えと理由を話す。
5	■相手に納得してもらうために、プラスチック使用についてのALTの考えを聞き、その内容を基にして、自分の考えと理由を話す。
6	■身近な環境問題を解決するためにできることについてまとめるために、環境問題を解決しようとしている人の話を聞いて分かったことを基にして、自分の考えと理由を話す。

<ポイント②の具体例> 言語活動でメモや思考ツール等を活用する。

【第5時】相手に納得してもらうために、話し手(ALT)の意見を聞き、要点を捉え、聞いたことについて自分の考えと理由を話す。
(動画08:37～)

原稿に書いたものを読むのではなく、メモや思考ツール等を活用し、自分の考えを整理しながら英語で表現する活動を設定してみましょう。



☆聞いた内容について書いたメモに、自分の考えやその理由を加筆するなど、メモを活用して、自分の考えとその理由を整理しメモを基に話します。

<生徒が書いたメモ>



<生徒が話した内容>

I disagree. I have 3 reasons. First, many people throw away plastic, so the city become dirty. I have 1 question to Jeo(ALT). Do you want to live dirty city? ... (ALTとやりとりし、意見は続く)

子どもたちの力を最大限に引き出す校内研究の充実に向けて

～今年度の研究を振り返り、次年度の研究をスムーズにスタートするために～

西部教育局
お役立ち情報
令和8年3月号

校内研究の1年間のまとめのこの時期に、その年に実施した学校評価や学力調査・アンケート等を生かした「状況の把握」や「分析・診断」、「課題づくり」までを実施し、学校目標が達成できたかを具現化し、共通理解しておきましょう。

そして、今年度の校内研究の取組によって、授業改善は進んだか、子どもにどんな力が付いたのか、どんなことができるようになったのか等、校内研究のサイクルを全職員で共有し、次年度4月からの新体制での校内研究がスムーズにスタートできるようにしましょう。また、今年度の成果と課題を整理し、年度内に「次年度の校内研究の年間の構想(子どもの実態から見てきた研究の方向性・校内研修の計画・校内授業研究会の日程等)」を考えておきましょう。

校内研究のサイクル



A:Action
(改善)
成果と課題を確認し
改善を図る

R:Research
(状況把握)
子どもたちの実態を把握し、
伸ばしたい力の明確化

C:Check
(振り返り・評価)
目標に照らした評価
を行い、仮説を検証
する



D:Do
(実行)
仮説を立てて
実施する

P:Plan
(計画)
学校教育目標を基に
した授業研究の目標
計画を設定

check



- 研究主任だけでなく、チームでの取組になっていますか？
- 成果と課題、次年度の研究主題は全職員で共有できていますか？
- 一人一人が校内研究を自分事として捉えていますか？

⇒年度内に次年度の研究の構想をしておくことで、4月のスタートは新たなメンバーでの「組織づくり」からはじめることができ、早い時期に「実践」に移すことができます。研究の体制を早く確立することで、4月当初は、子どもと過ごす時間が確保できるというメリットもあります。

校内研究を組織的に進めるために

1年間のまとめの時期だけ、研究主任一人で研究のまとめを作成するのは大変。もっと周りの人を巻きこむために必要なことは何か考えていきたい。

次年度の研究に向けてデータが大事だと言われたけど、みんなを巻きこみながら分析できる何かいい方法はないかな。

うちの学校では、研究のまとめの作成にあたって役割分担をしているよ。業務を分担していくことも大事だと思う。

そして、次年度に向けて、今年度の課題を整理し、年度当初に成果指標・目標値を設定することで、より客観的な見取りができるということが分かったので、今年度中に成果指標に使えるようなデータは何かを考えておくよ。

先日の研究主任等研修会で紹介されていた「見え～る」の活用も考えてみようかな。



研究に活用できる情報館



西部教育局HPやとっとり「学びの部屋」には研究で活用できる情報があります。ぜひ御活用ください。



Googleアカウント
(@g.torikyo.ed.jp) で
ログインしてご覧ください。



今年度も残りわずかとなりました。学年、学級の締めくくりを大切にするとともに、次年度へ向けての準備も少しずつ意識していただきたいと思えます。そのために、まずは1年間の取組を振り返り、課題を明らかにしましょう。その際には右の資料も御活用ください。

課題をもとに、4月のスタートから学級経営を充実させていきましょう。本号では、学級経営を充実させるために意識して取り組みたい活動例を紹介します。



生徒支援・教育相談センター
「あしたも笑顔で」p13-15
魅力ある学校づくりのための
チェックリスト

児童（生徒）の発達を支える指導の充実

学習や生活の基盤として、教師と児童（生徒）との信頼関係及び児童（生徒）相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行う**ガイダンス**と、個々の児童（生徒）の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行う**カウンセリング**の双方により、児童（生徒）の発達を支援すること。

「小学校（中学校）学習指導要領解説総則編」より

ガイダンス（集団の場面で行う指導・援助）	カウンセリング（個別の課題に対応した指導・援助）
<p>すべての児童生徒が学級や学校生活によりよく適応し、豊かな人間関係を築くための「事前の情報提供」や「集団での共通理解」のこと</p>	<p>一人一人が抱える悩みや困難を受け止め、「個別の会話・面談」や「意図的な言葉かけ」を通して解決を援助すること</p>
<p>【活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ユニバーサルデザインを意識した環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・教室環境の工夫 <ul style="list-style-type: none"> →ロッカーの整理の仕方など、見本となる写真などを提示して共通理解をする。 →見通しを持って取り組めるよう、1日のスケジュールや授業の展開を黒板に提示し、全員に共有する。 ◎適応・選択のための情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ・行事や学習の開始時のオリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> →安心して、参加しやすい環境づくりのために、最初に目的やルールなどを丁寧に共有する。 ◎「学級開き」から早い段階での共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・教師の思いや願いの共有 <ul style="list-style-type: none"> →子どもたちに、自分が大切にしたいこと、許せないことなどを熱意をもって伝える。 ・生活習慣の定着 <ul style="list-style-type: none"> →短学活のプログラムや提出物の出し方などを、手順を追って全員で確認する。 ・学級目標作成のための準備 <ul style="list-style-type: none"> →子どもたちの思いや願いを十分に引き出し、全体で共有して目指す学級像を話し合う。 	<p>【活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎一人一人に寄り添う「確かな児童生徒理解」 <ul style="list-style-type: none"> ・毎日全員とコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> →朝の健康観察や提出物を直接受け取る時などに「あいさつ+ひとこと」を心がけ、その日の状態（顔色や反応）を把握する。 ◎悩みや困難への援助 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、周囲との連携 <ul style="list-style-type: none"> →学級通信などで生活の様子をこまめに伝え、保護者との共通理解を図る。一人で抱え込まず、学年主任や養護教諭らと積極的に情報共有を行う。 ◎児童生徒への接し方 <ul style="list-style-type: none"> ・意図的な言葉かけや接点づくりの工夫 <ul style="list-style-type: none"> →結果だけでなく、過程や頑張りの場面を捉えて、行動を意味付けたり、ほめたりする。 →「～してはダメ」と否定的な表現ではなく、「～しよう」と肯定的な表現を心がける。その際に、具体的な言動を伝えるようにする。 →不登校傾向の子どもに対しては、その子のペースに合わせたコミュニケーションを、反抗的な態度を示す子どもに対しては、毅然とした態度を心がける。

このような活動を行うことは、年度当初の小1プロブレムや中1ギャップといった生徒指導上の課題の解決にもつながります。ガイダンスで「**集団の安心感**」を、カウンセリングで「**個の安心感**」をつくることで、すべての子どもが安心して過ごせる学級を目指しましょう。

